

農業改良助長法

協同農業普及事業の運営に関する指針 (運営指針R02.8制定)

○普及指導活動の基本的な課題

- 1 担い手の育成・確保
- 2 スマート農業の実践等による生産・流通現場の技術革新・生産基盤の強化
- 3 気候変動への対応等環境対策の推進
- 4 食料の安定供給の確保
- 5 農村の振興
- 6 東日本大震災からの復旧・復興と大規模自然災害等への対応

協同農業普及事業の実施に関する方針 (県実施方針(R3~R7))

○普及指導活動の課題と取組

- 1 みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化
 - (1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援
 - (2) 新たな担い手の確保・育成と多様な人材の活躍支援
 - (3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援
 - (4) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援
 - (5) 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援
- 2 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給
 - (1) みやぎの食と農への理解促進と安全・安心な農畜産物生産の取組支援
 - (2) 多様化する需要の変化に対応した生産・販路拡大への取組支援
- 3 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築
 - (1) 地域資源や地域の特色を活かした営農・所得確保に向けた取組支援
 - (2) 関係機関等との連携強化と合意形成推進による地域農業の維持・発展支援
 - (3) 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援
 - (4) 大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援

令和5年度普及指導活動方針(年度方針) 年度方針に基づき重点的に取り組む、5つのプロジェクト課題

活動のテーマ

1 農地の効率的かつ総合的な利用に向けた「地域計画」策定支援【地域計画】

- ・市町村が策定する「地域計画」について、策定が円滑に進むよう取組を支援
- ・地域における農業の将来のあり方についての協議支援



2 園芸産出額増大と地域の特色ある園芸品目生産拡大に向けた産地育成の取組支援【園芸振興】

- ・高度な環境制御を導入した施設園芸の取組
- ・大規模露地園芸に取り組む経営体の栽培技術定着支援
- ・多様なニーズに対応した特色ある園芸品目の生産拡大



3 先端技術等の普及拡大と生産性の高い農業の実現に向けた取組支援【アグリテック】

- ・土地利用型農業の効率化・省力化に向けたアグリテックの導入や効果的活用支援(RTK基地局の活用)
- ・搾乳ロボットなどICT機器を用いた、効率的で生産性の高い農業の実現支援



4 環境に配慮した持続可能な農業・農村の構築支援と食と農への理解促進【みどりの食料システム戦略】

- ・環境負荷低減に資する持続可能な農業生産の取組支援
- ・食と農に関する理解促進の取組支援



5 資材価格高騰を背景とした耕畜連携による堆肥等の有効活用支援【耕畜連携】

- ・堆肥の有効活用や地域の未利用有機物の有効活用推進



各普及センターが取り組む活動概要

- 1 プロジェクト活動・・・ 32課題(新規16, 継続16)、活動期間(終期)を定め、対象者を特定して活動 [地域計画、園芸振興、アグリテック、みどり戦略、耕畜連携]
- 2 重点活動・・・・・・・ 42課題、活動期間は特に定めず、対象者はプロジェクト活動より広い
- 3 一般活動・・・・・・・ 活動内容や対象者が広範囲、普及センターの基礎的な活動

1 主なプロジェクト活動

◎亘理 新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展

設立から5年が経過し、経営環境の変化への対応のため、運営体制・経営計画を見直し、中期計画の作成支援を行った。具体的には、作業時間の整理や役割分担を見直し、3年後を目標に話し合い、経営上の課題を明らかにし今後の対応について共有した。また、乾田直播や新たな園芸品目の栽培技術支援により収量や売上高の目標を達成した。

◎仙台 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着

農地整備事業に先駆けて、えだまめ栽培に着手した2法人への支援として、水稲や大豆との作業が競合しないよう収穫から出荷調整作業までの栽培スケジュールの組立(品種比較、作業時間調査等)、排水対策・雑草防除等栽培技術支援を行った。結果、目標収量の達成、労働配分を考慮した生産体系が確立。

◎美里 土地利用型農業法人が取り組む加工業務用いんじんの生産安定

水稲や大豆との作業が競合しない品目として地域で取組が増加していたいんじん栽培において、排水対策や作型拡大等を支援した。結果、夏作及び冬作の課題が整理され、夏から冬までのリレー出荷が実現した。

◎登米 加工用ばれいしょ栽培技術の向上

令和3年度に設立された生産者組合に対して、技術対策及び組合活動の支援を行った。生育調査等の調査結果に基づき、適切な肥培管理が行われ収量向上が図られた。新規作付者に対しても早期に技術定着が図られた。

◎大河原 地域特産とうもろこし・そらまめの生産振興による

直売所の販売額拡大

村田町道の駅の生産出荷団体を対象に、コロナ禍で停滞した組織的な活動を再興するため、生産性向上技術の定着支援、新規作付誘導支援、販売促進取組支援を実施した。結果、新規作付者・面積ともに増加した。

◎気仙沼 四季成りいちごの生産体制確立による収量確保

新たに規模拡大した養液栽培施設における生産技術習得に向けた支援及び経営安定化支援を行った。肥培管理や防除指導の他、先進地視察により課題の解決を促した。結果、適切な従業員の配置等により生産体制確立に向けた改善が図られ、目標を上回る収量が得られた。

◎大崎 ねぎ産地における冬越し困い栽培の安定化と

環境にやさしい栽培技術の取組拡大

ねぎの安定生産支援(混合堆肥複合肥料の使用により追肥回数の削減や排水対策の実践支援)と困い栽培技術習得支援(温湿度管理をデータ化、品種比較)を行った。結果、収量確保が実現。事例集を作成予定。

◎栗原 人と環境にやさしいズッキーニ栽培と収益力の向上

株を支柱に仕立てて栽培する「立体栽培」により、秀品率の向上が図られた。生分解性マルチの導入試験を実施し、廃プラ削減と軽労化につながった。夏期高温による着果不良への対策や「栗こズッキーニ」の知名度向上に向けたPR活動を生産者や関係機関と連携して実施した。

◎石巻 長面地域における大規模土地利用型経営体の

持続的な水田農業の実現

対象地域の地力向上、飼料用米・WCS用稲の収量向上、乾田直播等の省力技術の導入を支援した。堆肥を組み合わせた実証による検証を行い、施肥改善により収量が向上した。WCS導入により昨季の分散が実現した。

2 重点活動

※(1)は全普及センターで必須取組

- (1) 新たな担い手の確保・育成及び女性活躍に関する取組
 - ・農業経営を営もうとする青年等の確保・育成及び女性の活躍に関する取組
- (2) 「地域計画」に関する取組
 - ・地域での話し合いや合意形成に向けた取組
- (3) 農業経営の安定化や経営継承等に関する取組
 - ・地域の担い手となる経営体の経営高度化に向けた取組
 - ・生産者の経営安定化
 - ・GAPIに取り組む経営体の育成・定着
- (4) 新たな園芸産地育成に関する取組
 - ・地域において生産拡大が想定される品目や新たに 取り組む園芸品目に対する生産技術支援
 - ・将来のプロジェクト課題となり得る取組
- (5) 耕畜連携に関する取組
 - ・耕種農家と畜産農家による地域内循環の取組
- (6) 地域の実情に合わせた重点的に活動すべき取組
 - ・水稲直播栽培技術の生産性向上支援
 - ・特色ある米づくりを通じた地域振興に関する取組(金のいぶき等)

3 一般活動

- 地域農業の担い手の育成・確保
- 法人化支援、法人の経営管理能力向上支援
- 水稲の安定生産と省力・低コスト稲作の推進
- 土地利用型作物(大豆、麦)の生産性向上支援
- 野菜、果樹、花きの生産拡大と品質向上支援
- 畜産の生産性向上と経営安定
- 安全安心な農畜産物の生産支援
- 野生鳥獣被害防止対策の支援
- アグリテックの推進
- 展示ほ・実証ほ等の設置運営

※左記に記載した主なプロジェクト課題は、32課題から抜粋した。 ◎完了課題 ○継続課題

第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画(R3~R12) 反映

革新支援専門員プロジェクト課題

広域的な課題解決、新技術・革新的技術の普及、民間等との連携

- ① 農業経営の効率化に向けたアグリテックの活用
- ② 集落営農組織の体制強化と経営発展

- ① 活動内容 ○アグリテックを活用した営農計画の策定 ○アグリテックの活用支援 ○アグリテックの普及拡大
- ② 活動内容 ○集落営農組織の将来ビジョン作成及び法人化支援 ○普及指導員のスキルアップ支援